



すこやかコラム

ことばについて(2歳〜3歳)

2歳、3歳の誕生日を迎えるころになると、それまで話していた単語から、単語を2つ、3つ並べて「ママ、こつち」など、つながったことばを話すようになります。ことばを豊かにするためには、子どもの「心の中のことば」を引き出すように話をすることが大切です。例えば、「うわー、フンフン」と言ったときは「本当だ。かわいいフンフンだね。どこに行くのかな?」と、話題を膨らませ、新しい言葉を足しながら返してください。子どもは、興味・関心を持ったことに合わせて会話をすることで、ことばの使い方を覚えていきます。

ことばが増えてくると、間違えたことばを使うこともあります。「あ、くのもすだ」と間違えて言ったときは「本当だ。クモの巣だね。クモさんもいるね」と、一度子どもの気持ちを受け止めてから、さりげなく直し補足してください。また、言ったことばが聞き取れなかったときには「ごめんね。よく聞いていなかったの。今なんて言ったの?」と、大人が悪者になって聞き返しましょう。強い言葉で聞き返し、子どもが話したい気持ちを失うことがないようにしてください。

お子さんが「ことばを聞いたり言ったりすることは楽しいな」と思うようなやりとりをすすめることが、「ことばを豊かにする」ポイントです。

原稿…市保健師

地域子育て支援センター

家族みんなで楽しもう！ に行ってきました

1月27日(火)、「家族みんなで楽しもう！」が開催され、市内の親子や園児がらくりん座による劇を楽しみました。

今回は、「まこちゃんとカラスのカーズケ」「てんぐめし」の劇が行われました。劇が始まると、子どもたちからは大きな声援が送られ、お母さんたちも真剣なまなざしで劇に見入っていました。

最後に子どもたちからは、「面白かった」「楽しかった」などの声が上がっていました。



◎春・夏・秋・冬
季節の歌あそびを楽しもう！
とき 3月18日(水)
午前10時45分〜11時30分



子育て相談by保健師の様子。

センターの催し

◎子育て健康相談by保健師
〜確かめて ホツと安心

とき 3月5日(木)・4月2日(木)
午前10時30分〜11時30分
※申し込みは必要ありません。

※申し込みは必要ありません。



季節の歌遊びを楽しもう！の様子。

◎ママのミニ学習会「からだ編」
〜生活リズム、おいしい楽しい離乳食&食事〜
とき 3月9日(月)
午後1時45分〜3時45分

講師 市保健師・栄養士
申込期限 3月6日(金)
※お子さんをお預かりします。
開催場所 すべて地域子育て支援センター
申込先及びくわしくは
地域子育て支援センター ☎(22)2299

だよ図書館

ホームページアドレス

<http://lib.nikkocity.jp/>

携帯電話用アドレス

<http://opac.city.nikko.lg.jp/>



お問い合わせは

◇今市図書館 ☎22-6216

開館時間：午前9時〜午後6時

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

◇日光図書館 ☎53-5777

開館時間：午前9時30分〜午後6時

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

◇藤原図書館 ☎76-1203

開館時間：午前9時30分〜午後6時

休館日：毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

▼今市図書館

◎民話の広場
とき 3月8日(日)
午後1時30分〜2時30分

内容 民話や昔話の実演
定員 40名(先着順) 参加料 無料
申込方法 電話か窓口で申し込む

◎読書会(二水会)

とき 3月11日(水)午後1時30分〜3時
内容 一冊の本を読み、お互いの読後感や意見を交換し合う会です。

題名 女の足音(平石三枝)

◎おはなし会

とき 3月14日・28日(土)
午後2時〜3時
内容 絵本の読み聞かせや紙芝居など

▼日光図書館

◎読書会(いずみの会)

とき 3月17日(火) 午前10時〜正午
内容 一冊の本を読み、お互いの読後感や意見を交換し合う会です。

題名 佃島ふたり書房(出久根達郎)

◎おはなし会

とき 3月7日・21日(土)
午後2時〜3時
内容 絵本の読み聞かせや手遊びなど

◎赤ちゃんのためのおはなし会

とき 3月5日・19日(木)
午前10時30分〜11時
内容 絵本の読み聞かせや手遊びなど

▼藤原図書館

◎おはなし会

とき 3月4日(水)
午前10時30分〜11時30分
3月28日(土)
午後1時30分〜2時30分
内容 絵本の読み聞かせや人形劇など

再読はいかがですか

一度読んだことのある本を、時間が経ってから再び読むと「以前受けた印象と違っていた」という経験がどなたも一度はあるのではないのでしょうか。子どものときには主人公に自分を重ねていたのが、大人になって読むと自分の現在の立場に近い登場人物や背景に気が付き、前と違う感想を持つと思います。親になった方は親の目線になって、子どもの主人公の言葉や行動にハラハラしたりするかもしれません。また、人生経験を積んでから読むことで、理解がより深まることなどもあります。

図書館コラム

本を楽しもう！



例えば、昭和48年から現在に至るまで小学校2年生の国語教科書に収録されている作品に「スーホの白い馬・モンゴル民話」(大塚勇三再話)があります。モンゴルについてテレビなどで多少見聞きした大人が再び触れると、主人公をはじめとする家族や友人そして白馬の喜怒哀楽が、小学生のときとは一味違って感じられるのではないのでしょうか。原作は、横長の大きな絵本として出版されており、赤羽末吉氏によって描かれた雄大なモンゴルの風景が、パノラマで広がります。

本は、読む時期や心理状況で受ける印象が変わります。また、昔読んでいたころの記憶がよみがえることもあるでしょう。小説などの物語だけでなく、実用書や過去に話題になった本なども、もう一度読むと意外な発見があるかもしれません。「夢中になって読んだあの本」がある方は、もう一度読み返してみてもいいですか。